



TITLE:

同好會報

AUTHOR(S):

CITATION:

同好會報. 天界 1925, 5(59): 494-496

ISSUE DATE:

1925-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160321>

RIGHT:

同好會報

○大阪で臨時總會

豫報の如く、去る十月二十四、五兩日、大阪支部員たちの幹旋により、本會は臨時總會を大阪に開いた。順序は、まづ、十月二十四日午後七時、大阪毎日新聞社内の大集會室で通俗大講演會を開き、吉岡幹事の開會の挨拶の後、山本教授は「最近天文學上の五大事件」を題し

- 一、火星の近接と其の觀測結果概要、
- 二、アインシュタインの相對原理に關する論争と、其の天文學的確立、
- 三、天體進化論の歸趨と、マイケルソンの干涉計觀測による恒星直徑の確證、
- 四、太陽熱の變動に關する論争、
- 五、ヘンリ・ドレーパー目録の完成と、ミヌ・カノンの功績

を挙げ、二時間にわたつて詳述せられ、終りに幻燈畫を以つて、講話を補足せられた。講演後、屋上の露臺で、一同、月を觀望した。今夜、來會者總計約四百名。同好會の催はしとしては未曾有のことであつた。

翌二十五日は總ての催しが東區安土町三丁目、船場小學校に移る。集會は總て同校三階の大集會室で行はれ、其れに隣る一室に天文圖書の、小展覽會を午前九時から開いた。此の展覽室で、十時から山本教授は來會者のために展覽品の説明をせられた。次いで午前

十一時より大集會室で、會員のために天體觀測術講習會が開かれ、上田理學士の懇篤なる講話があつた。

午後は二時半から、大集會室で臨時總會の協議會が開かれ、山本幹事座長となり、先づ、同好會の會務一般報告、次で竹内氏より會計報告があつた。此等の報告によれば、本會の現狀は決して樂觀し難く、會員數は約一千に減じ、(但し、之れは今年春以來、會費納付不成績の會員を可なり多く整理したのによる、其の内、前金納入額が充分で眞に會員と信頼し得る者の數は約七百に過ぎず、従つて會の會計事務は甚だしく溢滞し、現に負債約壹千圓に上つてゐる。此の難局を脱するため、議事に入つて、いろいろの意見が現はれたが、結局、

- 一、本部提出の(甲)案(本誌第五十七號第四〇二頁下段記載)によつて、毎月の會費を金五十錢に上げ、即刻實行。同時に會員總數を少なくとも二千名に増すため、各自努力勧誘する事、
- 二、會の財政援助の目的で、本會に維持會員制を設ける事、但し詳細規定は幹事に一任。
- 三、會の現在の負債を償却するため、此の際、會員一般より臨時寄附金を募る事。但し其の金額は寄附者各自の任意。之れに關する事務は本部に一任。
- 四、「天界」に廣告欄を擴張して、會の財政

を補ふ事、

五、「天界」に今一層平易通俗な記事を加へて、新會員の募集に便利にする事。

を採擇した。

次いで、同好會天文臺建設問題の議事に入り、まづ、山本幹事より新望遠鏡購入の交渉頗る未報告したが、時既に薄暮に近く、議事を進めることが不可能になつたので、吉岡氏の發議により此の問題に關する一切の事務は本部幹事の推舉する特別委員に托する事に決し、午後四時半閉會。

午後五時よりは別の場所、大阪支部主催の晚餐會あり。昨今兩日の講師及び遠地より來會せる會員たちは之れに招かれた。

午後七時より、又、船場小學校内の大集會室で學術講演會が開かれ、先づ荒木理學士が「星の一生」を題し、次で百濟理學士が「北斗と進行星群」を題し、共に、興味多き講話をせられた。此の會に集まつた人約百名。

今回の臨時總會は、言ふまでもなく、本會創立滿五周年の紀念を兼ね、會の難局處理、新天文臺の計畫等の重要議事を進める目的であつたが、天文臺の件は時間不足のため充分なる決議をする事が出来ずして、特別委員に附托するの止むなきに至つたけれど、其他はよく目的を達することが出来たことは喜ばしい、兩日にわたる種々の會合に大阪支部の人々が非常に熱心に盡力せられ、又、大阪毎日新聞社の後援も頗る有力であつたことは感謝に耐へない。――來會者は大阪附近の在住者

が最も多かったが、しかし、東は東京、長野、西は岡山や下ノ關からも會員が参加せられ、眞に全國的の總會であつた。

○北海道支部報告 (一)

八月二十三日午後六時より米田幹事宅で在札の學生のみで例會を開く、天文雜誌に一夜を送り、ザルに山盛りのトマト、一つのまにやら消えうせた。集るもの十二人。

九月十六日松川支部長の送別會を北海道帝大學生集會所にて行ふ。集るもの十五名に及び盛會なりき。先づ米田君の送別の辭あり次いで松川氏の答辭あり。後おいしい料理と共に天文の話、特に松川氏の好きな黒點と地震に花が咲いた。星の花が咲いたと云ひたかつた。

○北海道支部報告 (二)

十月七日北大學生集會所にて十月例會及觀測會を行ふ。晴れた此夜は望遠鏡にて木星と二重星の觀測をした。やがて集會所を引き上げ測候所のコンクリートの機上で三つの小望遠鏡が西から東、北から南と空を征服して一同が歸宅したのは十一時過ぎで東天には月が昇つて居つた。参集者十三名。

○天文同好會大阪支部例會報告

大阪支部の例會日である九月十二日(第二土曜日)午後五時から船場小學校で幹事會が開かれた。殘暑尚ほ酷烈で蒸すがやうな曇さであるこゝはらず全部の幹事が出席した。

會議はブン／＼進行した。同好會の總會を大阪に開くこと、天文講演會や天文展覽會を催うすことなどが主なる題目であつた。その他望遠鏡の問題や、大阪支部基金のこと、天界の内容が立派になつたにつき會費の増加に至當であることなどの話も出た。その中漸次會員の顔が見え出した。中には今回始めて會宅に出席したといふ方もあつた。狭い室で暑い思ひをするより早く露臺へ出て觀測をやらうと一同露臺に出た。折から西天には金星が見えてゐたが其の他の天はS.K.に蔽はれてゐるので何にも見えない。さしづめ望遠鏡は金星に向けられた、まもなく西天に雲がかつて、頂天の雲が切れたから木星が現はれ出した。百濟先生は時計を出して、木星の月の影が映つる時刻だといはれる、皆が觀測しない中に雲がかつた。その代りに土星がすがたを見せたので急ぎ望遠鏡をそれに向ける、四五名の會員が見る間に雲にかくれた。ゲエガのリングネビュラ宅に向ける。二三名が見ただけですぐかくれた。當夜三十五六名の會員が出席したのに遺憾なこと夥しい。それから見込のある星が見え次第に鏡を向けた。北斗のジエタにも北極星にも若干のものは觀測の眼を着けたであらう。九時過ぎてからダン／＼天が晴れて來た。木星は再び耀いた。會員邊女史のお連れの方々の觀測を樂しんだであらう。觀測のあい間に會員の中には宮森幹事や百濟先生を捕へて質問を連發してゐるのを見たがその熱心な眞面目な態度には

感心せずにはゐられなかつた。おたがひに益々勉強しよう。(前田)

○岡山支部十月通信

一、天體觀測會 二日午後七時から、眞庭郡河内小學校で開催、水野幹事之れを指導した上、一場の講話をした。
二、土日講習會 三、四の兩日苫田郡奥津小學校で開催され、水野幹事は國語讀本にある天文學教材について講話をなし、夜分は天體の觀望を指導した。
三、天界研究會 十日午後七時から、宮原幹事宅で開催。

四、太陽觀測會 十八日靈伯吉田苞、三雲聯

隊區司令官、瓜生商業學校長、岸本洗太郎、村野鐵造、坂本善一諸氏の宅で開催された。

五、大阪臨時總會に出席、水野幹事は二十四日上阪、大毎樓上の講演會に出席、二十五日は臨時總會に臨み、二十六日は大阪市教育會主催講演會に臨席、歸途明石市にて下車、中央標準時子午線通過地を視察した。

六、講話會 二十七日三十日の兩日岡山縣師範學校二部生の爲めに天文に關する講話を、水野幹事はした。

○東京支部新設

久しく希望されてゐた同好會東京支部が去る十月七日開かれた。當日恰も出張中の山本教授が臨席され、東京市芝區三田豐岡町の日本光學工業會社で講演會と觀測があり、後、いろいろ懇談した。今後毎週土曜日支部幹事宅で例會がある筈。

天文同好會規則

(大正十四年十月改正)

- 第一條 此ノ會ヲ天文同好會ト云フ
- 第二條 此ノ會ハ天文學ノ了解ヲ進メ兼ネテ同好者相互ノ親睦ヲ増スノガ目的デアラル
- 第三條 事務所ヲ京都市吉田町京都大學天文臺ニ置ク、又會員募集ノ地ニハ支部ヲ置ク事ガアル
- 第四條 此ノ會ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ次ノ事業ヲ行フ
- 一、集會(講演例會毎月一回、總會年一回其他臨時會)
- 二、講習(各地デ臨時ニ開ク)
- 三、雜誌圖書ノ出版(雜誌ハ月一回會員ニハ無代配布、圖書ハ隨時)
- 四、實地觀測(第一部啓蒙的 甲觀望、乙見學 第二部研究的、甲流星、乙變光星、丙彗星)
- 第五條 此ノ會ノ目的ニ賛同スル者ハ誰デモ會員ニナレル
- 但シ會費トシテ毎月金五拾錢ノ割デ、成ルベク半年分又ハ其ノ倍數ヅツナ前金ヲ納入スルコト
- 申込ノ際ハ住所職業生年ヲ記入セラレタ
- 第六條 本會ノ經費ヲ支持スル趣意デ毎年金貳拾圓以上ヲ釀出スル者ヲ維持會員トスル
- 第七條 一時金壹百圓以上ヲ寄附スル者及ビ會員五十名以上ヲ紹介シタル者及總會ニテ

特ニ推舉セラレタ者ヲ名譽會員トスル

第八條 此ノ會ノ幹部ハ次ノ通り

幹事 三名 會計 一名

此ノ幹部ハ總會選舉セラレル者デ任期ハ一ケ年

第九條 此ノ會ニ評議員若干ヲ置キ、幹部ノ相談相手トナル

第十條 幹部ハ會員ノ中カラ次ノ係リヲ指名推舉スル

講演係一名、編輯係三名、觀測係一名、寫眞係一名

○同好會天文臺

大阪總會では時間が不充分であつたため同好會天文臺の協議を進めることが出来なかつたのは遺憾であるが、本部では取り敢へず幹事會を開いて、左の通り天文臺委員を推薦し、尙、まづ募金の條件を左の通り決定した。

一、天文臺委員は、當分の内、本會の幹部及び本會評議員を以つてあてゐること

二、募集する寄附金は口座制とし、一口金五圓と定むること、募金總額金參千圓の豫定

三、寄附者は一口又は其れ以上を寄附されたいこと。——寄附者には新設天文臺への入場券を贈呈すること。

尙、詳細は天文臺委員との協議を経て隨時發表する。

○本會評議員推薦

本會は左の二十五氏を今般評議員に推薦した。

百濟敦敏、吉岡哲夫、水野千里、宮原節、

上島校長、宮森作造、飯義壽、内山新、森下助次郎、村山辨次、田中朝夫、濱野眞、宮島善一郎、黒岩魁一郎、宮川周治、上條清人、三澤勝衛、熊野徳一、古賀和吉、野垣寛二、林松次、吉井正敏、米田勝彦、小橋孝二郎、五藤齋三

寄附金募集

一、同好會天文臺新設のために

本邦最初の民衆天文臺として三十二センチ口径の反射鏡を中心に適當の地に建設する。

ついては之れは徹頭徹尾同好會のもの、同好會員のものとしたい。同好會員であれば自由に觀測研究が出来るやうにしたい。そのため同好會員は一人残らず奮つて募金に應ぜられんことを望む。

二、同好會の現在の財政を救ふために

約一千圓の負債を整理せんため、さきに大阪總會での決議により、同好會員一般より臨時に特志寄附を募る。但し寄附金額は寄附者の任意。——金壹百圓以上の方は名譽會員に推薦される。